

令和4年度 学校関係者評価書

評価項目	本年度の活動(手立て)と指導	学校関係者評価(○:成果、▲:課題、)	今後の改善点
<p>前置市立福生小学校</p> <p>特別支援教育・人権教育をベースにした教育活動の推進</p> <p>1 生活規律</p> <p>○「学校や社会の決まりを守っている」児童95.2%、保護者96.6%が肯定的な回答。問題が起こる前の指導に努めたことで、児童の自己肯定感に繋がった。</p> <p>▲「自分から挨拶」は、児童84.1%保護者79.6%が肯定的な回答。児童の実態は、挨拶は返すが、自分からしている姿は少ない。学校・地域が目指す姿と児童・保護者の認識に差がある。</p> <p>⇒3学期、児童会(児童)を中心として、自分の姿を見直し評価、成長に繋げる機会を設ける。</p> <p>○「もくもく掃除」の取り組み2年目。時間いっぱい掃除をする意識は育ってきている。</p> <p>2 仲間づくり</p> <p>○学校が楽しいか児童91.4%、保護者95.5%が肯定的な回答</p> <p>⇒日頃のきめ細やかな指導が、人権が守られる学校に繋がっている。みんなが安心安全な学校を目指し引き続き取り組む</p> <p>⇒特に肯定的な回答をした児童には、すぐに面談を通じて関わり取り。継続して観察。児童の気持ちに寄り添い、仲間と繋げ、成長を支える指導をしていく。</p> <p>○様々な理由で不登校傾向な児童・家庭へ、一人ひとりに応じた支援を積極的に検討し見直し。段階的に適切な交流を行っている。</p> <p>⇒学習簿を使った課題提出、オンライン学習など多様な学びを確認している。</p>	<p>○生活規律の実態からも児童はおおむね落ち着いた学校生活を送っている。</p> <p>▲今後も継続できるように地域もバックアップしていきたい。</p> <p>○挨拶は、おおむねできている。</p> <p>○学校訪問時、色々な場所で見守られる。</p> <p>○標準中の方への会釈など気持ちに寄り添った挨拶ができていく。</p> <p>○あいさつ運動、多くの児童が元気に挨拶を返す。</p> <p>▲今後はみんなが「自分から挨拶」ができるように指導を継続していく必要がある。学校での指導だけでなく、地域から児童や保護者へ声掛けをしていく必要がある。</p> <p>○学校が楽しいと肯定的な回答が多い。おおむね児童が気持ちよく通った指導が進められている。</p> <p>▲様々な理由で不登校傾向の児童・家庭に対して一人ひとりに応じた支援を行い、寄り添った指導をしていく必要がある。</p>	<p>○「こんな福生っ子になろうね」や長期休暇に向けて配布する「生活のさまり」等を、全学年で指導。児童の「さまりを守ろう」とする意識を高める。</p> <p>○年度末には、児童会が中心となって、自分の姿を見直し評価、成長に繋げる機会を設ける。</p> <p>○挨拶は、挨拶を返す児童からの姿から、意識の高まりを感じる。今までの指導の成果を継続。</p> <p>○挨拶は返すものの、「自分から挨拶」ができる児童は、まだ多いとは言えない。今後も、地域や家庭と連携しながら、全員で指導にあたる。</p> <p>○来年度は、感染症対策の規制も緩和するので、児童会を中心とした「あいさつ運動」に再度取り組む。</p> <p>○掃除について、高学年を中心に丁寧に掃除に取り組む姿が見られた。今後も活動の充実を図り、児童の意識を高める。</p>	<p>○「いじめアンケート」をはじめ、一人ひとりの思いを大切に届けることができるような制度を、今後も継続する。</p> <p>○いじめ・差別は許さない「いじめ・差別をなくす」のめあてをもった人権学習を系統的に行う。</p> <p>○生活について継続させる「あいさつ」の活動を継続。児童理解や仲間づくりを続ける。</p> <p>○人権教育講座「地平線」を通して、各学年の人権教育の取り組みを児童・保護者・地域に向けて発信。人権を守る意識や実践力を育った児童の育成、家庭や地域と協力して行う。</p>
<p>「生きる力」をはぐくむ教育課程の創設</p> <p>1 わかる授業づくり推進</p> <p>▲全国学力・学習状況調査(6年対象)正答率は国語62.9%(全国比+2.7P)、算数62%(+1.2P)。</p> <p>⇒授業改善、指導力向上のための教育課程の推進</p> <p>○5年生習熟度別別人数指導(2年目)</p> <p>学習問題集において「算数の学習が好き」肯定的回答は62%(全国比+1P)、「よくわかる」肯定的回答は83%(全国比+3P)。</p> <p>⇒問いを添ったきめ細やかな指導が行われており、児童の理解が深まっている。</p> <p>○個別学習端末を含むICT活用について、「ほぼ毎日利用している」と回答した児童は59.3%(全国比+3.3P)。「学習に役立つ」と肯定的に答えた児童は96%。教科書だけでなく、児童が「わかる」実感を伴ったような有効活用されている。</p> <p>2 読書活動の推進</p> <p>○児童が主体的に企画やボランティアの活躍によって読書活動が充実した。</p> <p>▲「毎日読書をしているか」児童61.7%、保護者38.4%が肯定的な回答。学校では休み時間などに読書をするが、家庭では読書習慣が持てていないのではないかと考える。</p> <p>○どこでも読書ができるよう、いつも本が身近にある図書環境づくり</p> <p>▲学習端末利用による読書機会の減少</p> <p>⇒読書推進期間以外にも、読書活動の推進。家庭学習へ繋げる。</p> <p>○図書ボランティア等を活用し、図書室環境の整備</p>	<p>○習熟度別人数学習が効果的だった。</p> <p>▲少人数学習は、きめ細やかな学習支援を進めるため、担任等指導者が理解を深めつつ、学習支援ボランティアを活用して効果的な学習方法を進めていく必要がある。</p> <p>○学習端末の利用を積極的に進め、児童が効果的に活用できるようにする。</p> <p>○色々な工夫が学力向上に繋がっている。さらに工夫して頑張ってもらいたい。</p> <p>○読み聞かせボランティア、図書ボランティアの充実で、読書活動は効果的にできた。</p> <p>○ボランティアのための読み聞かせ講座を開催。新しく講義や相談に開始する本の紹介にボランティアは大変感謝し、児童も喜んでいた。</p> <p>▲読書習慣をつけるため、学校図書館の本を利用し、低学年時に読書カードの読み合わせをし、学年相当の読書習慣をつける必要がある。</p> <p>▲読書・メディアの活用・家庭学習の習慣化・スクリーンタイムの削減という課題を、包括的に考え、相乗効果が期待できるような取り組みを、児童や家庭に提起していく必要がある。</p>	<p>○今後も、全学年においてきめ細やかな学習指導を実施していく。</p> <p>○ICT活用について、全学年において、様々な教科や教育活動で推進する。児童の活用能力も伸ばす。</p> <p>○児童の学習端末の利用を進める。今年度の成果から、毎日持ち帰り、家庭学習と学校での授業で活用する。</p> <p>○2年生で、学習ボランティアを活用し九九の確認テストを行ったことが、特に効果的であった。今後も活用し、児童の意欲や学習内容の定着に繋げる。</p>	<p>○基礎学力を主体的に学ぶ力、情報活用能力など多く求められる中、教育課程の中でも読書活動に重点を置いて取り組んだ。隙間時間に読書会をさせるなど、習慣化するように指導する。</p> <p>○図書室に来校しなくなるような企画や、読書会を始める活動を継続。来读者数を増加させる。</p> <p>○図書館の企画や展示で、図書館ボランティアを活用。一層活動を盛り上げる。</p> <p>○今後も、家庭での読書習慣を身に付けることができるよう、地域や家庭と連携して指導する。</p>
<p>3 家庭学習の習慣化</p> <p>○今年度から、家庭学習ががんばり週間(学期1回)を設定。保護者と連携し、家庭学習の習慣化・充実に取り組んだ。成果や課題を周知、自主学習の掲示等で、児童・保護者ともに意識が高まった。取り組み状況について、児童71.4%、保護者78.1%が肯定的な回答。特に保護者において、昨年度比4P増加</p> <p>▲家庭学習時間は、全国と比べ6大変短い</p> <p>▲特に中・高学年(小学5・10以上の家庭学習が難しい傾向)学習内容が難しくなること、保護者の手が離れることが影響していると考えられる。</p> <p>⇒引き継ぎ家庭への啓発、適切な評価を早く返すことで児童に達成感を持たせ、児童・保護者ともに意欲の向上を目指す。</p> <p>○学習端末を有効的に使った個別学習や家庭学習の研修会を実施。指導に力を入れた。</p> <p>4 スクリーンタイムの削減</p> <p>○今年度から中学校区で連携したノーマメディアデーを設定(1・2学期2回、3学期1回)</p> <p>⇒3時間以上の児童も多く、家庭での様子の実態把握ができた。通信で啓発。保護者との連携が必要。</p> <p>▲使用時間は、全国と比べても長い</p> <p>▲スクリーンタイムを守っていますか?児童は92.3%、保護者は70.7%が肯定的な回答。</p> <p>⇒児童が保護者と決めた家庭での約束を理解していないケースも多い。</p> <p>⇒学校だけで保護者へ周知・啓発。ノーマメディアデーの継続的な取り組みと指導で児童の意識を変えていく</p>	<p>○家庭学習ががんばり週間により、家庭学習の習慣化がやや進んだ。</p> <p>▲取組を継続。家庭学習の習慣化を更にレベルを上げる必要がある。</p> <p>▲中・高学年以上の学習時間は、家庭の協力に頼るだけでなく、学校で自主学習などの学習方法を検討し、すぐれた取り組みを紹介したりするなどの取り組みが必要。</p> <p>▲学年×10に加え、自主学習を何でもする習慣が必要。保護者の努力と支援も必要。</p> <p>○ノーマメディアデーの取組は効果的。今後も引き続き継続。</p> <p>▲家庭でのルール作りと早い時期での定着が望ましい。家庭と連携し、習慣化に向けて取り組む必要がある。</p> <p>▲保護者の意識を高め、家庭内のコミュニケーション時間を増やしたりスクリーンタイムの削減協力を求めていく必要がある。</p>	<p>○ノーマメディアデーで一定の成果を得ることはできた。その期間だけ減らすだけでなく継続して取り組ませたい。</p> <p>○スクリーンタイムの削減・ノーマメディアデーの取り組みは、ゲームやSNS等の利用期間であり、端末を利用した学習等は含まれない。その範囲について、保護者や地域の理解は十分でなかったことがあった。今後は、その意味や目的についても啓発していく。</p> <p>○学校だけでなく児童の実態や課題、成果などを啓発してきて、まだ伝わっていない地域や家庭の実態もある。これからも、啓発を継続していく。</p>	<p>○漢字・計算・音読の宿題に加え、学習端末による宿題も始まった。家庭学習の質を高めることに重点を置いて指導することが大切。</p> <p>○今後も家庭学習に毎日取り組ませること、基礎的な学力向上に繋げる。</p> <p>○家庭学習が「がんばり週間」の継続。児童に、意欲的に取り組ませる。</p> <p>○取り組みの成果を家庭や地域に周知していくこと。家庭と連携して、児童に力を身に付けていく。</p>
<p>5 キャリア教育の推進</p> <p>○夢や目標について児童80.6%が肯定的な回答。うち、67.7%の児童が「はい」</p> <p>○地域学習、出合い学習を通して、児童の心に残る学びができた。</p> <p>▲保護者が肯定的に答えたのは65.2%。児童比+15P。従来の児童の実態が分かるが、それを家庭と共有し共に育てていく取り組みも必要。</p> <p>⇒「なんのために学ぶのか」教師が児童の自己実現に寄り添う。肯定的な回答の児童には、小さな目標を一緒に決めて取り組ませ、がんばる姿に寄り添う。成功体験を重ねていく継続して指導。</p>	<p>○日々の考え方や進路も違う中で指導は大変だが、児童の長所を伸ばしてほしい。</p> <p>▲学校地域で自己肯定感を高める取組をし、系統的な地域学習と繋げていく必要がある。</p> <p>▲キャリア教育という観点からは、自分の夢や目標をもつために多様な夢や目標をもてるような学習の場を設けたり、他の児童の夢や目標を尊重したりする授業を行う必要がある。</p>	<p>○各学年において、地域学習や出合い学習に取り組む。たくさんのお話から学ぶものも多かったため、今後も継続。</p> <p>○キャリア教育を意識した視点で、活動を取り入れる。</p> <p>○年間指導計画を年度初めに確認する中で、キャリア教育と繋がる教材や地域学習・出合い学習をしっかりと進める。夢や目標を広げられるような部分を意識して指導を行う。</p>	<p>○各学年において、地域学習や出合い学習に取り組む。たくさんのお話から学ぶものも多かったため、今後も継続。</p> <p>○キャリア教育を意識した視点で、活動を取り入れる。</p> <p>○年間指導計画を年度初めに確認する中で、キャリア教育と繋がる教材や地域学習・出合い学習をしっかりと進める。夢や目標を広げられるような部分を意識して指導を行う。</p>
<p>1 防災教育の推進</p> <p>○家庭・地域と連携した見守りで、児童の交通事故0</p> <p>○感染症予防のため見合っていた避難訓練3回、引き渡し訓練1回実施。</p> <p>○災害が起こった時にすべしはいく知っているか(児童85.2%が肯定的な回答。うち69.4%の児童が「はい」)</p> <p>▲保護者75.6%が肯定的な回答。うち52.4%の保護者が「どちらか」とはい</p> <p>⇒家庭・学校外(通学路、放課後等)での避難法を児童が身に付けているか不安。家庭と連携して、防災教育を行う。</p> <p>⇒3学期に防災週間を設けて重点指導。</p> <p>⇒学習端末を活用し、発達段階に合わせた防災学習を系統的に行う。</p>	<p>○学校、PTA、地域が連携して登下校時の見守りができている。</p> <p>▲今後も活動を継続し、「児童に自己防衛の意識付けを図る必要がある。</p> <p>○防災週間重点指導はぜひ実施を。</p> <p>▲家庭・学校外(通学路、放課後等)での避難法について、学校での指導と家庭で確認し合う機会を年1回もち学校でも把握する機会を設ける必要がある。</p> <p>▲地域の見守り組織を明確にし児童が見守られていることを自覚し自分の命を守る力を身に付ける必要がある。</p>	<p>○今後も、家庭・地域と連携して、交通事故0を目指す。</p> <p>○防災週間重点指導を、来年度も実施する。</p> <p>○防災ノート、「学校防災みえ」アプリ等を用いて、系統的に指導を行い、防災意識を高める。</p>	<p>○今後も、家庭・地域と連携して、交通事故0を目指す。</p> <p>○防災週間重点指導を、来年度も実施する。</p> <p>○防災ノート、「学校防災みえ」アプリ等を用いて、系統的に指導を行い、防災意識を高める。</p>
<p>家庭や地域とともにある学校づくりの推進</p> <p>○ボランティアコーディネーター・地域コーディネーターが窓口となり、学校支援ボランティアを活用することで6年間の系統的な地域学習や出前講座を実施</p> <p>⇒次年度への計画を行い、更なる充実を目指す。</p>	<p>○学校運営協議会が学校と地域とが協議し協働していく場にならなければならない。</p> <p>○Coの取り組みで定着した。</p> <p>○見守り隊を再編。組織化ができた。</p> <p>○学習支援ボランティアが増加。積極的な参加で活用が昨年よりも進んだ。</p> <p>○学年ごとに計画的な地域学習を進めるの基盤ができた。</p> <p>○地域を活用利用することに学校は遠慮はいらない。子どもは地域の宝。</p> <p>▲系統的な地域学習を学校地域が連携して進めていくために今後も協議していく必要がある。</p> <p>▲年度や教師が変わっても系統的に地域学習が行われるようなシステムの構築をする必要がある。</p> <p>▲支援行事・ボランティアなどを一瞥にし、学校と夢協関係で全学年を踏まえて話し合いにより効果的に連携する必要がある。</p> <p>▲Coの中心を付けていたいただきボランティアの人数を増やしていく。</p> <p>▲レガシー事業「葉つづしの樹」が、学校と地域をそれぞれの思いを結んだ内容。長期的視点で地域とともに取り組み方を考えたい。</p>	<p>○校内では、コーディネーターが学年調整などを行ったため、学習カリキュラムを配慮した活動にすることができた。</p> <p>○学校が社会から求められる役割や、児童自身に力をつける力など、求められるものは多様である。教育課程と照らし合わせて効果的にボランティアを活用していく。</p> <p>○感染症対策や児童の実態などにも十分配慮して、臨機応変に活用していきたい。</p>	<p>○校内では、コーディネーターが学年調整などを行ったため、学習カリキュラムを配慮した活動にすることができた。</p> <p>○学校が社会から求められる役割や、児童自身に力をつける力など、求められるものは多様である。教育課程と照らし合わせて効果的にボランティアを活用していく。</p> <p>○感染症対策や児童の実態などにも十分配慮して、臨機応変に活用していきたい。</p>